



(医)潤心会理事長(岩手県)

鈴木千枝子 ⑧

コラムの先生面白いわ。この医院に転職しようかしらー」ということがないとは限らないじゃないですか。

今や病院でも介護施設でも企業でも歯科衛生士は引つ張りだこ。そしてお決まりの都会へのあこがれ。岩手県の盛岡市

求む 歯科衛生士

「求む 歯科衛生士」。これは求人広告です。いやそう思って読んでいたきたい。決してこの2年間一人も新卒応募のなかった当院の歯科衛生士不足の愚痴ではありません。ぜひこの新聞をスタッフの目の届く所に置いていただきたい。」あら、この

のすぐ隣の紫波郡矢巾町なのに、だーれも応募がない。いやあるのかも……。うちだけないのかも……。もしかして昔よく言われていた「あそこは厳しいからやめた方がいいよ」とか、「院長が怖いよ」とかいいうわさがいまだに悪意を持ってささやかれているのかも。

であれば声を大にして言いたい。昔は7時過ぎまで診療し、スタッフがクタクタになるまで働かせておりましたが、なんと現在は5時半で診療を終了し、6時半にはほぼ全てのスタッフが帰宅するという優良企業なみ(?)の勤務状況。院長にとつて

大切な顧客であるスタッフを何よりも大事にしております。院長が怖かったというのも昔の話。今は年を取り、たばこも止めたので、とっても穏やかなおばさんになりました。また地元定着のため、役場職員との合コンも院長中心に企画しております。ぜひ60代まで当院で働いて

「受け入れ準備万端、カモン新卒！」と鼻息荒く盛岡の歯科衛生士学校に今年の状況を問い合わせたところ「先生申し訳ありません。先生の医院への見学希望者はおりませんでした」……。来年の4月、キラキラ目を輝かせたピチピチの新卒歯科衛生士さんたちとは、もう会えないらしい……。

こうなったら高校生から困い込むのはどうだろう。そうだと奨学金制度を作ろう！貯金を切り崩して3年先の新卒のために、入学金と授業料を全額持つからうちで〇〇年働いてね！というのはどうかしら。夢の中でも考え続けている今日このごろである。